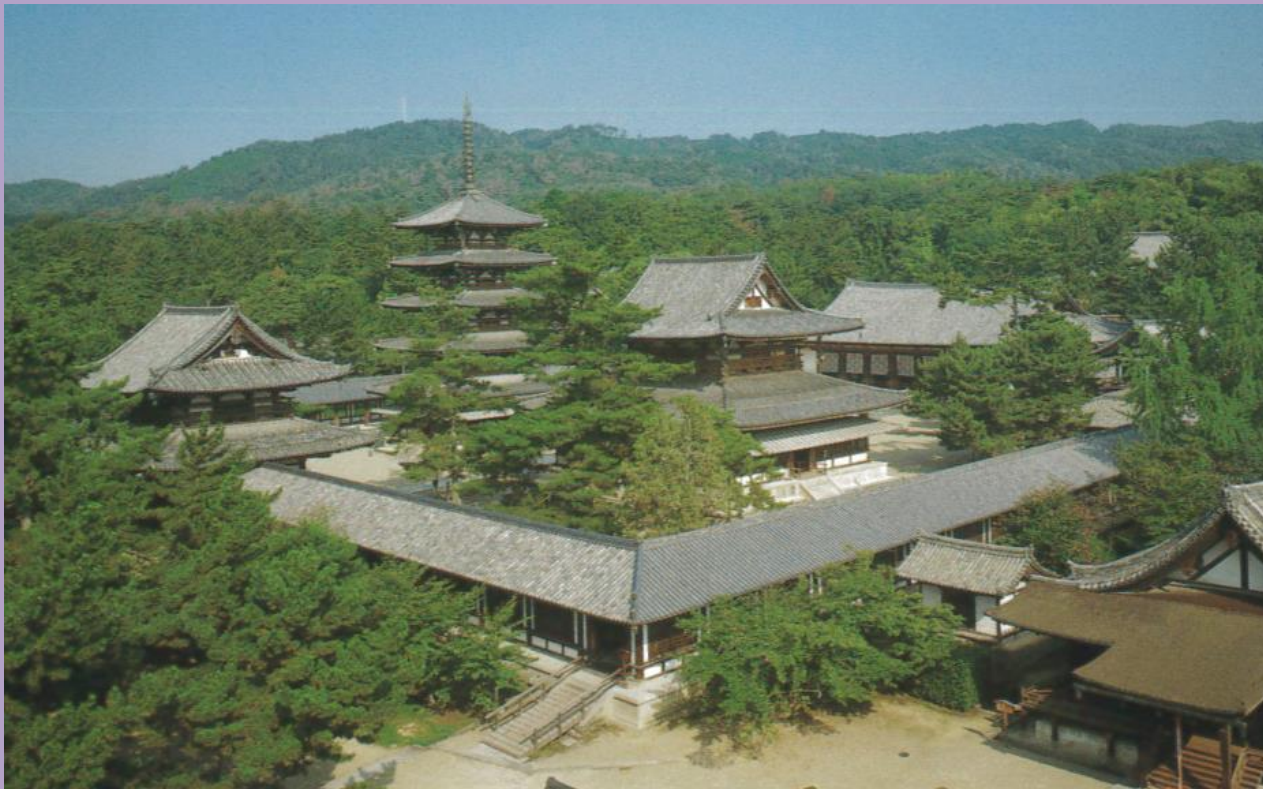


平成30年10月20日(土)

「法隆寺地域の仏教建造物」世界文化遺産登録25周年記念セミナー
聖徳太子のおもかげに会う斑鳩

第2回 「聖徳太子と法隆寺」

法隆寺管長 大野玄妙

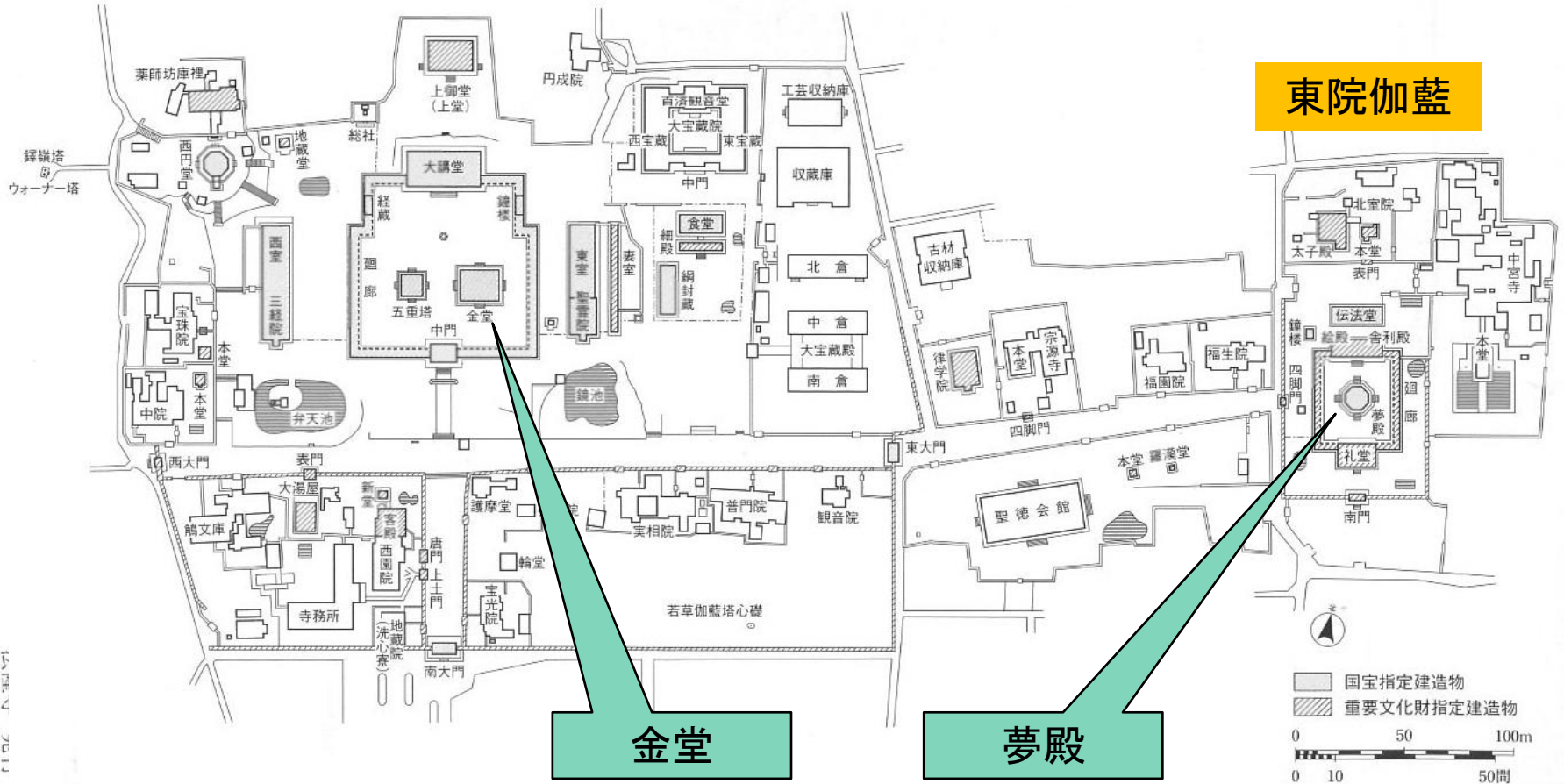


法隆寺西院伽藍 全景

法隆寺境内平面図

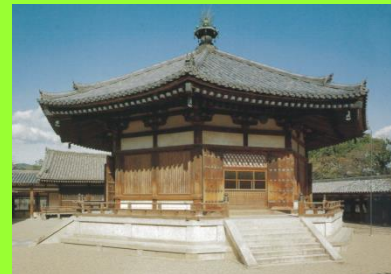
西院伽藍

東院伽藍



金堂

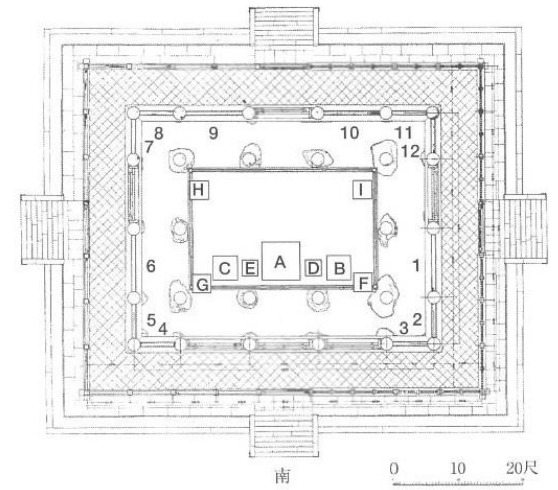
夢殿



法隆寺金堂内部



金堂平面図



壁画配置

- 1 第一号壁 (釈迦浄土)
- 2 第二号壁 (日光菩薩)
- 3 第三号壁 (観音菩薩)
- 4 第四号壁 (勢至菩薩)
- 5 第五号壁 (月光菩薩)
- 6 第六号壁 (阿弥陀浄土)
- 7 第七号壁 (聖観音菩薩)
- 8 第八号壁 (文殊菩薩)
- 9 第九号壁 (弥勒浄土)
- 10 第十号壁 (薬師浄土)
- 11 第十一号壁 (普賢菩薩)
- 12 第十二号壁 (十一面観音菩薩)

仏像配置

- A 金銅 釈迦三尊像
- B 金銅 薬師如来像
- C 金銅 阿弥陀如来像
- D 木造 毘沙門天像
- E 木造 吉祥天像
- F 木造 持国天像
- G 木造 増長天像
- H 木造 広目天像
- I 木造 多聞天像

釈迦三尊像

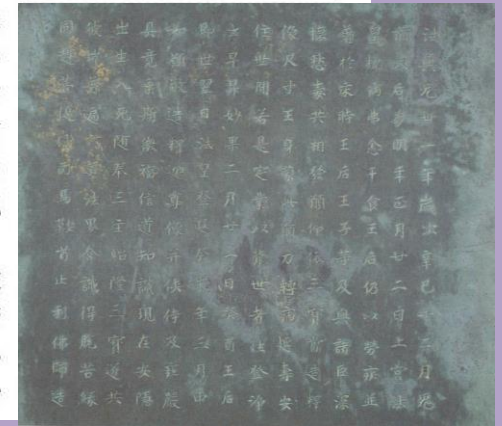


釈迦三尊像

金堂釈迦三尊像光背銘

法興元卅一年歲次辛巳十二月鬼前太后崩明年正月廿二日上宮法皇枕病弗愈干食王后仍以勞疾並著於床時王后王子等及與諸臣深懷愁毒共相發願仰依三宝當造釈像尺寸王身蒙此願力軫病延壽安住世間若是定業以背世者往登浄土早昇妙果二月廿一日癸酉王后即世翌日法皇登遐癸未年三月中如願敬造釈迦尊像并俠侍及莊嚴具竟乘斯微福信道知識現在安穩出生入死隨奉三主紹隆三宝遂共彼埠普遍六道法界含識得脫苦縁同趣菩提使司馬鞍首止利仏師造

法興元三十一年^{はし}歲次^{かのとみ}辛巳(推古二十九年)に^{つぎ}次る十二月に鬼前太后(聖德太子の母、間人皇后)崩りたまふ 明年正月廿二日上宮法皇、病に枕して食を^た悉はず 王后(膳妃)また勞疾を以て並に床に着きたもう 時に王后王子等また諸臣と深く愁毒を懷きて 共相に願を發す 仰ぎて三宝に依り當に釈像の尺寸王身なるを造るべし 此の願力を蒙り病を軫じ 壽を延ばし世間に安住したまわんことを 若し是れ定業にして 以て世に背きたまわば 往きて浄土に登り早く妙果に昇らせたまわんことを 二月廿一日癸酉 王后即世したまい 翌日法皇登遐したもう 癸未年(推古三十一年)の三月の中に願の如く敬みて釈迦の尊像並びに俠侍及び莊嚴具を造り竟りぬ 斯の微福に乗り 信道の知識現在は安穩にして生を出て死に入らば 三主に随い奉り三宝を紹隆して 遂に彼埠を共にし 普遍の六道法界の含識も苦縁を脱することを得て同じく菩提に趣かんことを 司馬鞍首止利仏師をして造らしむ



釈迦三尊像光背の銘文

薬師如来坐像



薬師如来坐像

池邊大宮治天下天皇大御身勞賜時歲次丙午年召於大王天皇与太子而誓願賜我大御病太平欲坐故將造寺薬師像作仕奉詔然當時崩賜造不堪者小治田大宮治天下大王天皇及東宮聖王大命受賜而歲次丁卯年仕奉

薬師如来坐像光背の銘文

金堂薬師如来像光背銘

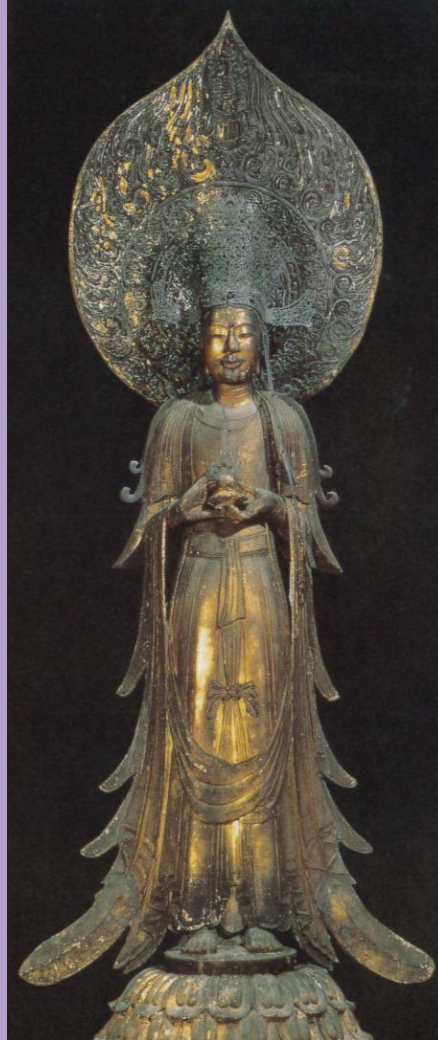
池邊大宮治天下天皇大御身勞賜時歲次丙午年召於大王天皇与太子而誓願賜我大御病太平欲坐故將造寺薬師像作仕奉詔然當時崩賜造不堪者小治田大宮治天下大王天皇及東宮聖王大命受賜而歲次丁卯年仕奉

池邊大宮治天下天皇(用明天皇)大御身勞き賜いし時、歳は丙午に次りし年(用明元年) 大王天皇(推古天皇)と太子とを召して誓願し賜わく、我大御病太平おほのみやまいたいらきなんと欲し坐す。故、寺を造り薬師像を作り仕奉らんとすと詔りたまいき。然れども当時崩り賜いて造り堪えざれば、小治田大宮治天下大王天皇(推古天皇)と東宮聖王(聖徳太子)大命を受賜わりて、歳は丁卯かのとらに次りし年(推古十五年)に仕奉りき。

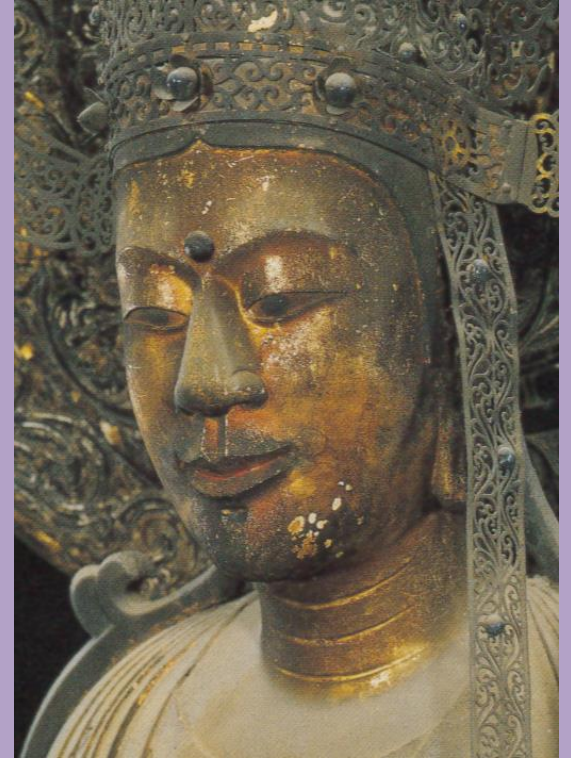
救世觀音(木造觀音菩薩立像)



法隆寺東院伽藍



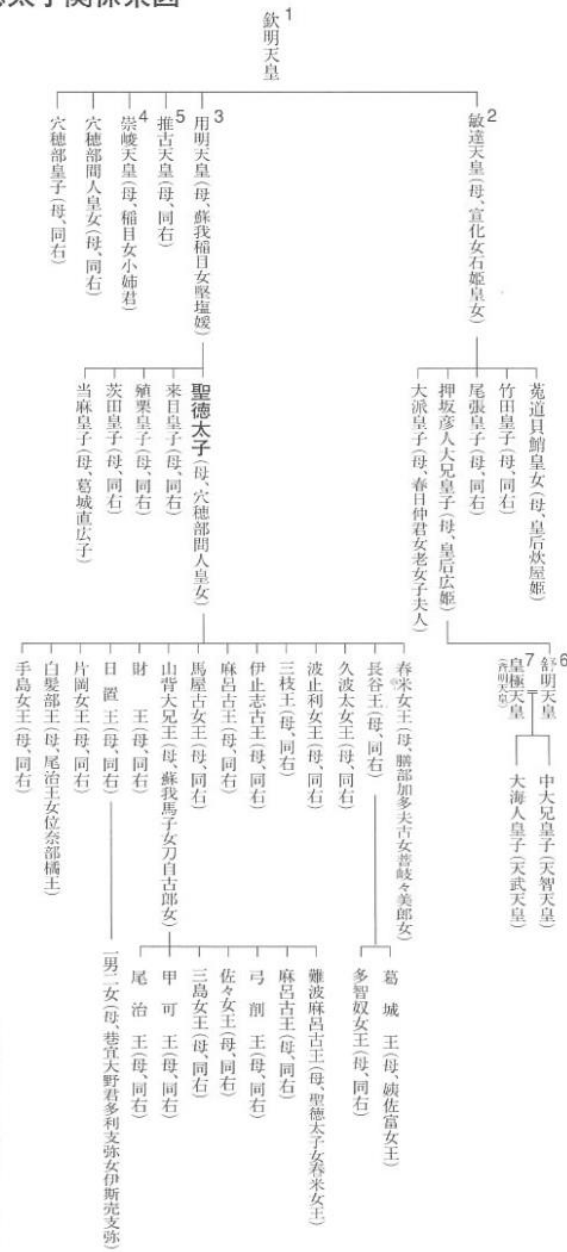
救世觀音



救世觀音

【参考】

聖徳太子関係系図



◎坂本太郎「聖徳太子」による
 ○数字は皇位継承の順を示す

仏像の部分名称

金堂釈迦三尊像





秋の法隆寺西院伽藍